

中尾小だより

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 2596-1

HP <http://nakao-e.saitama-city.ed.jp> TEL: 048-873-0216 FAX: 048-810-1120

学校教育目標
知・徳・体の調和のとれた
心豊かな人の育成

あの夏の原点 ～ 今を大切に生きる ～

校長 田口 幸久

「100年間開かなかった扉が開いたので、多くの人の顔が浮かびました」今夏の甲子園は、東北のチームが初優勝し、監督の優勝インタビューの言葉に胸が熱くなりました。彼が母校、仙台育英高校野球部2年生の時、当時の慣例として学年から一人、ベンチ入りを諦め裏方に回るようになっていた折、立候補者は出ず、「俺がやります」と涙ながらに手を挙げたことが、指導者としての原点となったそうです。「どうすれば試合に出られるのか。目標が知りたい」悶々としていた最中、試合に出たくても出られない選手の心の声を聴いた、と。

私事で恐縮ですが、私自身の教師としての原点は、32年前の夏、当時小学校3年生の担任をしていた時の教え子を病気で亡くしたことです。誰からも愛される本当に優しい9歳の女の子でした。目の前で彼女の命がつかえていった時の悲しみは、一度も忘れたことがありません。「自分は教師として、何ができたのであろうか」今でも毎年、その子の命日と誕生日にはご自宅や群馬の墓前にご挨拶に伺っています。

彼女のお墓から少し車で行くと、星野富弘さんという人の作品が展示してある富弘美術館があり、この夏も出かけてきました。星野さんは中学校の体育教師をしていた時、クラブ活動の指導中に首に大けがをし、首から下が動かない体になってしまいました。一度は生きることをやめようかと考えたそうですが、入院中の母の懸命な介護や血のにじむような努力もあり、やがて動かない手の代わりに口に筆をくわえ、絵や詩の制作を始めるようになりました。まわりから励まされ、「もう一度自分らしく生きてみよう」と行動を起こしたように、今度は自分が魂を込めてかいた絵や詩で、「人に勇気を与えたい」と思ったことが、星野富弘という人間の原点になったのだと感じました。星野さんの作品に「昼顔」という詩があります。

雑草と呼ばれる草だけど 一日で終わる草だけど
手を抜いていることがあるか 寂しそうなところがあるか
今日が一生 昼顔の花



昼顔の花は、朝咲くともう夜には二度と開かない。昼顔はたった一日の命なのに、一生懸命咲いて、寂しそうなところは一つもない。今日一日が一生、それでも「命の輝き」を見せ精一杯生きているという詩です。昼顔は一日、人の命は80年と言われていますが、その中で「命の輝き」はどうやったら出せるのでしょうか……。答えは出ませんが、私自身も、その子や家族、支えてくださる沢山の人の顔を思い浮かべながら、「与えていただいた命を精一杯生きよう」そう、教え子の墓前に改めて誓ってきました。「今、この時を大切にしてほしい」永遠に9歳の彼女は、いつも笑顔で語りかけてくれているような気がしています。

さあ、いよいよ2学期、新しいスタートです。遠足や校外学習、音楽会他、行事も多い学期ですが、感染対策には十分注意をして、充実した教育活動を行ってまいります。中尾っ子たちには、楽しく伸びやかに学校生活を送れるよう、力を合わせ、子どもたちに寄り添っていきたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様、応援どうぞ、よろしくお願ひいたします。